

# 2025 年度 医学部教育センター一年報



# 目次

教育センター長あいさつ	2
教育センター会議	3
教育センター定例ミーティング	4
教務委員会	6
カリキュラム委員会	10
臨床実習委員会	12
医学部 FD 委員会	15
地域医療教育委員会	16
学生生活委員会	18
学修支援委員会	21
医学基盤教育委員会	25
医学部 IR 委員会	26
論文	29
著書	30
競争的研究資金獲得	31
学会発表	32
講演・ワークショップ	42
その他	49
編集後記	50

[はじめに]

## 教育センター長あいさつ

近畿大学医学部 教育センター長

再生機能医学 主任教授

梶 博史

令和2年に設置された医学部教育センターも7年目に入ります。令和4年度から私が教育センター長を担当し、主担当の講座と教学部長を兼任しています。今年度の医学基盤教育部門を除いた専任教員としては、平野先生が関西空港クリニックに異動された後しばらく欠員になっていましたが、4月から産婦人科学の貫戸先生に教育センターの専任教員に加わっていただきます。令和8年度は引き続き専任教員5名の体制で活動をしていくこととなります。近畿大学医学部・病院は、令和7年11月に大阪狭山市から堺市南区泉ヶ丘地区に移転しました。新しいキャンパスは、おおさかメディカルキャンパスと名付けられ、教育センター教員の机も、医学基盤教育部門を含めて、集合医局3階フロアの中で同じ場所に集められ、教員間の交流も容易になりました。

近畿大学医学部は、令和6年9月に、日本医学教育評価機構(JACME)による2巡目の分野別評価を受審し、令和7年6月から7年間の認証を受けることができました。受審に際して、自己点検評価書作成、根拠資料の整備、実地調査の準備・対応などの様々な面でご協力いただいた教員、職員、学生の皆さんに心から感謝申し上げます。JACME評価への対応の中で、教育の質改善が進み、教員の意識も向上してきたと思います。しかしながら、医師の働き方改革の影響もあり、教員の教育や研究にかけられる時間に制約がかかっています。今回受審後の改善のための助言・示唆として、診療参加型実習、学修成果の評価、CC-EPOC、e-ポートフォリオ、mini-CEXをより実質化していくことが求められています。それに対応していくためには、どうしても教員に時間的なご負担をかけることとなります。これらの様々な課題の解決においては、講座横断的に活動する医学部教育センターの役割はますます重要となってきます。医学部教育センターは、委員会組織としての教務委員会、カリキュラム委員会、学生生活委員会、臨床実習委員会、学修支援委員会、FD委員会、地域医療教育委員会、基盤教育委員会や連携している医学部IR委員会と協力しながら、引き続き教育改善に努めていきたいと思っております。皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

[委員会報告]

## 教育センター会議

医学部教育センター長  
再生機能医学 主任教授  
梶 博史

医学部教育センター会議は、医学部教育センターの各部門長と教育センター専任教員(医学基盤教育部門を除く)が参加する会議で、年に2回実施しています。医学部教育センターの教学系委員会で審議する事前の検討として、医学教育上の重要な問題点について審議しています。今年度は、11月に医学部・病院の移転があったため、秋の開催は中止しました。

### 第1回 医学部教育センター会議

日時: 2025年5月1日(木)16:00~18:00

場所: 病院棟 3 階 会議室

議題:

1. 医学部教育センターの新メンバー紹介
2. JACME 指摘事項への対応
3. カリキュラム改訂案について
4. 教学 PDCA サイクルの修正案
5. 移転にかかる検討事項
6. 教員の活動と能力開発(FD)に関する方針について
7. OSCE 評価者の各講座への割り当てについて

[委員会報告]

## 教育センター定例ミーティング

医学部教育センター長  
再生機能医学 主任教授  
梶 博史

医学部教育センター教員(医学基盤教育部門を除く)における医学教育上の情報の共有と、課題の検討、教員間のコミュニケーションを促進するために、毎月定例教授会の翌日夕方に医学部教育センターミーティングを開催しています。本年度は下記の日程で開催しました。

第1回 医学部教育センターミーティング  
日時: 2025年4月17日(木)17:00～  
場所: オンライン

第2回 医学部教育センターミーティング  
日時: 2025年5月22日(木)17:00～  
場所: オンライン

第3回 医学部教育センターミーティング  
日時: 2025年6月19日(木)17:00～  
場所: オンライン

第4回 医学部教育センターミーティング  
日時: 2025年7月17日(木)17:00～  
場所: オンライン

第5回 医学部教育センターミーティング  
日時: 2025年9月18日(木)17:00～  
場所: オンライン

第6回 医学部教育センターミーティング  
日時: 2025年10月16日(木)17:00～  
場所: オンライン

第7回 医学部教育センターミーティング  
日時: 2025年11月20日(木)17:00～

場所: オンライン

第8回 医学部教育センターミーティング

日時: 2025年12月18日(木)17:00～

場所: オンライン

第9回 医学部教育センターミーティング

日時: 2026年1月22日(木)17:00～

場所: オンライン

第10回 医学部教育センターミーティング

日時: 2026年2月19日(木)17:00～

場所: オンライン

第11回 医学部教育センターミーティング

日時: 2026年3月19日(木)17:00～

場所: オンライン

[委員会報告]

## 教務委員会

教務委員長

再生機能医学 主任教授

梶 博史

月に1回、定例教授会の前の週に開催しています。医師国家試験結果の総括、総合試験、関西公立私立共通試験、CBT、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCEの結果報告や審議、各学年の進級判定、卒業判定、各種試験の作問についての審議と教授会への提案を行いました。教学PDCAサイクルの改訂、令和8年度入学生以降のカリキュラム改訂案の審議、令和8年度教務日程の審議、医学部履修要項の修正を行いました。また、医学部・病院移転に関連した教務対応の議題について検討しました。さらに、医学部IR委員会、学修支援委員会、OSCE運営委員会の報告がありました。以下に、試験判定や作問以外の11回の委員会議題を示します。

### 第1回 教務委員会

日時：2025年4月9日(水)17:00～

場所：オンライン

議題：

1. 第119回医師国家試験の総括
2. 令和6年度疑義申し立てと回答のまとめ
3. 令和7年度教務連絡窓口担当について
4. 令和6年度医学教育科目別アンケート結果について
5. 医学教育分野別評価認定結果について
6. FD委員会報告
7. 学修支援委員会報告

### 第2回 教務委員会

日時：2025年5月14日(水)17:00～

場所：オンライン

議題：

1. 令和6年度試験問題相互確認のまとめ
2. 教学PDCAサイクルについて
3. IR解析結果報告
4. 試験終了後報告様式の変更について
5. 医学部教育センター会議報告

### 第3回 教務委員会

日時: 2025年6月11日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度入学生以降のカリキュラム案について
2. 医学部IR委員会報告
3. OSCE運営委員会報告
4. 学修支援委員会報告

### 第4回 教務委員会

日時: 2025年7月9日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 総合試験等における試験監督業務委託について
2. UNIPA RX更改 及び KDU Mobileの全学導入について
3. 新キャンパスにおける施設利用について
4. 医学部IR委員会報告

### 第5回 教務委員会

日時: 2025年9月10日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度入学生カリキュラム変更における学則変更について
2. 令和8年度教務日程について
3. カリキュラム・ポリシー改訂について
4. 医学部諸規程の改定について
5. 教務に関する医学部・病院移転後(11月以降)の対応について
6. 学生代表者会議での教務に関する要望事項について
7. 学修支援委員会報告
8. OSCE運営委員会報告

### 第6回 教務委員会

日時: 2025年10月8日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. テュートリアル室等の利用について
2. 試験監督実施要領の改定について

### 3. 学修支援委員会報告

#### 第7回 教務委員会

日時: 2025年11月12日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度1学年教務日程について
2. 3-4学年科目再試験対象者数の推移について
3. 医学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像、医学科カリキュラム編成との特色の改訂について
4. 医学部IR委員会報告

#### 第8回 教務委員会

日時: 2025年12月10日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度授業評価の実施方法について
2. 医学部IR委員会報告

#### 第9回 教務委員会

日時: 2026年1月7日(水)17:00～

場所: オンライン

議題: 試験関係

#### 第10回 教務委員会

日時: 2026年2月12日(木)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 学長賞・学部長賞について
2. 試験問題相互確認について
3. 学修支援委員会報告

#### 第11回 教務委員会

日時: 2026年3月7日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 医学部諸規程および進級基準について

2. 試験監督要領の改訂について
3. 入学試験および学生教育における利益相反(COI)管理について
4. 1-4学年e-ポートフォリオ運用について
5. 学修振り返りアンケートについて
6. 臨床実習委員会報告
7. OSCE運営委員会報告

[委員会報告]

## カリキュラム委員会

カリキュラム委員長

内分泌・代謝・糖尿病内科学 主任教授

前田 法一

令和7年度は、JACME2巡目での指摘事項、学生ならびに教員に対するアンケート調査結果、本学の共用試験CBTの結果・成績などを踏まえて、カリキュラム改訂に向けて様々な視点から取り組んできました。そして、本委員会のみならず、関連する各委員会での審議・承認を経て、医学部自己点検・評価委員会および教育評価委員会にてご評価頂きまして、令和8年度入学生から新カリキュラムへ移行することになりました。この場を借りて、ご尽力頂きました先生方ならびに学生諸君、そして学務課の皆様には厚く御礼申し上げます。

新カリキュラムの良否に関しては、これから6年先になって初めて評価されるものかも知れませんが、本医学部学生教育にとって実りあるカリキュラムであることを祈念しております。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

### 第1回 カリキュラム委員会

日時：2025年4月2日(水)16:45～

場所：オンライン

議題：

1. 2025年度(令和7年度)委員会のメンバー変更
2. 2025年度(令和7年度)学生委員
3. 2025年度(令和7年度)2学年チュートリアル担当教室
4. 2025年度(令和7年度)シラバスチェック:教育アウトカムのリスト
5. 労働法教育講義:2024年度(令和6年度)の報告と2025年度(令和7年度)の予定
6. カリキュラム改訂について

### 第2回 カリキュラム委員会

日時：2025年6月4日(水)16:45～

場所：オンライン

議題：

1. 2025年度(令和7年度)委員会の学生委員について
2. DREEM調査の結果について
3. 近畿大学医学部Faculty Development(FD)委員会規程(案)について

4. カリキュラム改訂について
5. 2026年度(令和8年度)1学年医学概論について
6. 2026年度(令和8年度)1学年医学概論について

#### 第3回 カリキュラム委員会

日時: 2025年10月1日(水)16:45～

場所: オンライン

議題:

1. 2026年度(令和8年度)医学概論について
2. 2025年度(令和7年度)労働法教育について
3. 2025年度(令和7年度)学生代表者会議について
4. オンデマンド講義の試行と学生アンケート結果

#### 第4回 カリキュラム委員会

日時: 2025年12月3日(水)16:45～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度(2026年度)以降入学者の新カリキュラムに基づくツリーについて
2. 令和8年度(2026年度)シラバスについて
3. 令和8年度(2026年度) 医学英語日程について
4. 令和8年度(2026年度) 時間割作成について
5. 1学年新科目の教育内容について
6. オンデマンド授業の方法について
7. 令和8年度(2026年度) 医学概論講義シリーズについて

#### 第5回 カリキュラム委員会

日時: 2026年2月4日(水)16:45～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度(2026年度)シラバス点検担当者
2. カリキュラム委員会のメンバーについて
3. 令和8年度(2026年度)カリキュラム委員会日程について

[委員会報告]

## 臨床実習委員会

臨床実習委員長

医学部教育センター 教授

三井 良之

令和7年度の臨床実習における大きな変化は11月の移転事業であった。移転前後は、臨床実習を一部縮小せざるを得なかったものの、担当教員、病院各方面のご協力で大過なく乗り切ることが出来た。臨床実習委員会は年6回開催予定であるが、本年度は移転時期は実施せず、年間を通して5回の開催となった。現状の臨床実習における問題点をその都度の委員会で議論し、JACME 第2 巡目の受審で指摘された臨床実習に関する問題点について、検討を進めた。昨年度に引き続き、臨床実習におけるprogrammatic assessment(以下、PA)の実装に向けて、mini-CEX を含む WpBA の着実な導入など、形成的評価としてのCC-EPOC の質の向上に努めた。PAにおける総括的評価について、Google Drive上の評価シートを用いているが、アウトカム評価との整合性はIRセンターのご協力を得ながら進めてよく予定である。また、令和9年度11月からは、令和4年度版モデルコアカリキュラムに基づいた臨床実習プログラムの構築が求められている。総合診療を含むプログラム構築をどのように整備して行くかが大きな課題である。

### 第1回 臨床実習委員会

日時：2025年5月7日(水)16:30～

場所：オンライン

議題：

1. 新任臨床実習委員、学生・研修医委員の紹介
2. カリキュラム改革と臨床実習改革ワーキングについて
3. CC-EPOC について
4. 臨床実習Ⅱ 受入れ人数に関するアンケートについて(お願い)
5. 7月28日からの臨床実習レビューについて
6. 手術見学時のお願い
7. 臨床実習委員会の年間予定

### 第2回 臨床実習委員会

日時：2025年7月2日(水)16:30～

場所：オンライン

議題：

1. 11月からの臨床実習スケジュールの提示と臨床実習シラバス, 臨床実習評価シート作成のお願い
2. 2024-2025年臨床実習 I・II 教育アウトカム付き評価表の提出および追実習について
3. 2025年11月からの臨床実習オリエンテーション各科説明について(資料作成のお願い)
4. カリキュラム改革と臨床実習改革ワーキングについて
5. 2025年12月からの臨床実習 II について
6. CC-EPOC入力状況報告
7. 手術見学時の注意事項について
8. 臨床実習における個人情報の扱いについて
9. 学生用電子カルテの運用について

### 第 3 回 臨床実習委員会

日時: 2025年9月3日(水)16:30~

場所: オンライン

議題:

1. 臨床実習 I 実習初日(11月10日)の集合場所について
  - 臨床実習 オリエンテーション実施場所一覧
2. おおさかメディカルキャンパス移転後の臨床実習の運用について
3. 令和8(2026)年度 臨床実習の手引きについて
4. 11月17日からの臨床実習レビュー(5 学年)
5. 臨床実習における学修状況の早期把握に関するお願い
6. 11月 4 日からの臨床実習オリエンテーション
  - 令和7年度 4学年 白衣(臨床実習生(医学)認定証)授与式
  - 2024年度 臨床実習 I 臨床実習オリエンテーション
  - 臨床実習 I スケジュール・担当表
7. 臨床実習 II 教育連携病院の受け入れ・割り当て状況と連携病院会
8. 臨床実習 I 追実習(10月期)について
9. CC-EPOC 入力状況報告

### 第 4 回 臨床実習委員会

日時: 2025年12月24日(水)16:30~

場所: オンライン

議題:

1. 教育連携病院会議の報告
2. CC EPOCの動向

3. 2023ー2024年度 臨床実習アウトカム評価の集計報
4. 3月の臨床実習レビュー(4-5学年)に関する報告
5. 臨床実習の評価基準について

#### 第 5 回 臨床実習委員会

日時: 2026年3月4日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. IFMSA活動の留学における臨床実習の公欠措置について
2. 臨床実習期間における病院見学に関するアンケートについて
3. 次年度の委員会開催日程について
4. 新年度からの診療棟「学生教育実習室」の運用(予約)について
5. 臨床実習 実習先(第4～6クール)について
6. CC-EPOC について

[委員会報告]

## 医学部 FD 委員会

医学部 FD 委員長

医学部教育センター 教授

三井 良之

FD 委員会は年度末に開催される。令和 7 年度の定期会議は 2025（令和 7）年 3 月 17 日（火）に開催された。本年度は、FD 研修会受講状況の報告や来年度の予定とともに、新たにFDとして取り上げるべき課題について議論された。

### 第 1 回 FD 委員会

日時：2026年3月17日(火)15:00～

場所：オンライン

議題：

1. 令和 7 年度のFD 研修会受講状況
2. 令和 8 年度のFD 研修会日程と演題について

[委員会報告]

## 地域医療教育委員会

地域医療教育委員長

小児科学 主任教授

杉本 圭相

近畿大学医学部では、2010年度から地域枠入学制度が導入され、医師偏在地域の課題解決に継続的に寄与している。一方で、途中辞退となる学生も一定数存在するため、地域枠学生、および地域枠以外の学生における地域医療教育への一層の理解と参画が求められる。

そのため、本委員会では、本学医学部学生に対し、① 各自治体から地域医療の現状、医師の必要性、現在活躍している医師の紹介などを通じた大学内外の組織や地域との連携強化、② 地域枠の卒業生より地域医療の実践を講義してもらい、将来の自分を想起することを促進させるような将来のロールモデルの形成、③ 診療所における実習などにより、地域の中での診療所の役割を学び、住民対象の健康教育に参加することで予防医学の概念を学ぶ多職種連携教育を推進するため活動している。

### 第1回 地域医療教育委員会

日時：2025年6月9日(月)17:00～

場所：オンライン

議題：

1. 医学部における地域医療教育の推進について

### 地域医療教育の実施

地域枠学生への継続的な関わりを強化するとともに、地域枠以外の学生も含めた地域医療の推進を目的とし、令和7年度カリキュラムにて下記地域医療教育を実施。

- 1 学年: オリエンテーション (静岡県)、地域包括ケア実習
- 2 学年: 地域包括ケア (近畿厚生局)、医師会の役割 (大阪府医師会)
- 3 学年: 地域医療講義
- 4 学年: 串本実習 (和歌山県)
- 5 学年: 串本実習 (和歌山県)、近大奈良病院実習 (奈良県)
- 6 学年: 地域医療実習 (静岡県)

全国医学部長病院長会議 (AJMC) 「地域枠制度についての意見交換会」

日時: 2026年3月5日(月)13:00～17:30

場所: TKP ガーデンシティ PREMIUM 秋葉原 3階3A

議題:

1. 義務年限終了後の進路
2. 診療科選択
3. 地域枠定員

要約:

地域枠制度は、医師不足地域の医師確保に一定の成果を上げている一方で、義務年限終了後のキャリア形成や専門研修との整合性などの課題もある。今後は、地域医療支援センター、都道府県、大学が連携し、卒前から卒後まで一貫した支援体制を整えることが重要である。また、地域枠制度を単なる配置策ではなく、地域医療と大学をつなぐ人材育成システムとして捉える視点が求められる。とくに都市部大学では、地方大学とは異なる制度運用やキャリア形成のあり方を踏まえ、大学が主体的に地域医療人材育成と連携体制の構築に関与していく必要がある。

[委員会報告]

## 学生生活委員会

学生生活委員長

精神医学 主任教授

橋本 衛

令和7年度の学生生活における最大のイベントは新キャンパスへの移転です。移転により、講義室を含めて施設全般が新しくなり、また体育館や茶室が新設されるなど、学生生活支援は一層充実しました。新しいキャンパスを満喫している学生の姿がそこかしこに見受けられます。令和7年度から学生生活委員会に学生委員が参加するようになりました。学生連絡会の会長と副会長が毎回委員会に参加し、学生の視点から意見を述べることにより学生の意向をくみ取りやすくなるとともに、委員会で決定した事項を速やかに学生に周知できるようになりました。

クラブ活動では、夏季西医体が鹿児島大学の主管で開催され、近畿大学からも多くの学生が参加いたしました。毎年秋に開催される金剛際は移転のため中止となりましたが、次年度は新たなキャンパスで再開する予定です。保護者懇談会は、春はハイブリッド形式で開催し、秋は移転と重なったため、新キャンパスの内覧会として実施いたしました。内覧会には266名もの保護者が参加くださり、参加者からは施設設備等に対して高い評価をいただきました。

学修支援については、医学部生が学会発表のため学会に参加する際の一部経費を補助する制度を令和6年度より開始しましたが、令和7年度も4名の学生が本制度を利用して学会発表を行いました。海外派遣プログラムについては、今年度は8名の学生をイギリス、タイ、台湾の各病院に派遣しました。残念ながらUAEへの派遣については、イラン紛争のため直前に中止いたしました。

令和8年度から看護学部が開講し、医学部生と看護学部生が一つの教育棟で学ぶこととなります。また部活動や金剛際は、両学部生が共同して取り組むこととなります。学生生活委員会は、看護学部の学生担当者と連携を取りながら、医学部生が充実した学生生活を送ることができるように、今後も活動してまいります。

### 第1回学生生活委員会

日時：2025年4月8日(火)17:00～

場所：オンライン

議題：

1. 課外活動団体公式戦一覧について
2. KINDAI 病院奨励賞規程および内規の変更について

#### 第2回学生生活委員会

日時: 2025年5月13日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. キャンパス移転後の課外活動時間の延長について
2. IFMSAの留学生受け入れについて

#### 第3回学生生活委員会

日時: 2025年6月10日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 課外活動団体の廃部について
2. KINDAI病院奨励賞の選考について

#### 第4回学生生活委員会

日時: 令和7年7月8日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 令和7年度課外活動予算について
2. 令和7年度海外派遣研修プログラムの実施について
3. 保護者向け内覧会の実施について

#### 第5回学生生活委員会

日時: 令和7年9月9日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 移転後のマスク着用について
2. IFMSAの活動補助について
3. 新キャンパスにおける医学部、看護学部共同の活動について
4. 移転期間中の課外活動の実施制限について

#### 第6回学生生活委員会

日時: 令和7年10月7日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 学生生活ガイドブック改訂について
2. 新キャンパスでの不適切な行動・態度における学生指導について

3. 準硬式野球部のPL学園のグラウンド使用について
4. 謝恩会の実施について
5. 学生の名札着用について
6. 学生2名から学会参加報告

#### 第7回学生生活委員会

日時: 2025年11月11日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 保護者内覧会の実施報告

#### 第8回学生生活委員会

日時: 令和7年12月9日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 課外活動団体規定の策定について
2. 令和8年度2-6学年新年度オリエンテーションの実施について
3. 新入生オリエンテーションの実施について
4. 令和8年度学生生活ガイドブック改訂案について
5. 海外派遣プログラム選考結果について
6. ダンス部の合宿中の事故後の活動制限について

#### 第9回学生生活委員会

日時: 2026年2月10日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度保護者懇談会について
2. 令和8年度メンターの選出について
3. 令和8年度からの名札の着用について
4. 校友会会長賞、学友会活動功労賞の選出
5. 学生2名から学会参加報告

#### 第10回学生生活委員会

日時: 2026年3月10日(火)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 令和8年度メンターの交代について

[委員会報告]

## 学修支援委員会

学修支援委員長

皮膚科学 主任教授

大塚 篤司

各学年の状況に応じた支援体制の整備・運営に取り組んでいます。

低学年(1・2年生)については、成績不振学生の抽出を前期・後期の試験結果をもとに2回実施し、特別指導体制へ移行しています。指導教員は学生2名を担当し、月1回以上の面談を通じて学習・生活両面を支援しています。25年度からはクラブ活動制限についても議論を進めており、勉学に集中できるように幅広く指導しています。

3年生については、CBT全員合格を目標に4月からビデオ講座を提供しています。総合試験とCBTの乖離に対応するため、各診療科と計4回のCBT化対策会議を開催しました。

4年生では、MEC模試と面談によりCBT・OSCE全員合格を目指しています。IR委員会の分析によりCBT得点下位25%の学生が国試に合格できる確率が50数%にとどまることが判明し、成績下位の学生への個別通知も実施しました。

5・6年生は、成績下位30名を対象にSクラスを設け、苦手科目に特化した講義を提供しています。25年度は6年生Sクラス受講者へMECの個人面談を導入する予定です。

こうした委員会は2か月ごとに開き、支援の効果判定と方法改善を継続しています。

### 第1回 学修支援委員会

日時: 2025年5月28日(水)17:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2025年度特別指導担当教員(1・2学年)について
2. Best Teacher賞・Good Teacher賞・Good Support Teacher賞候補者選考について
3. 2025年度活動報告及び次年度活動指針について

### 第2回 学修支援委員会

日時: 2025年7月30日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2025年度特別指導担当教員(1・2学年)について
2. 5年生Sクラス対策について
3. Good and best teacher賞とGood support teacher賞の承認結果報告について
4. 退職教官に関するGood and best teacher賞とGood support teacher賞の扱いについて

第3回 学修支援委員会

日時: 2025年9月24日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 1年生と2年生の特別指導体制学生の成績について
2. 4年生CBT不合格者のカリキュラム・指導について
3. 5年生Sクラスカリキュラムの見直しについて

第4回 学修支援委員会

日時: 2025年11月26日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 1年生と2年生の特別指導体制学生の成績について
2. 4学年状況報告(CBT特別プログラム等)について
3. 6学年状況報告(関西公立私立共通試験)

第5回 学修支援委員会

日時: 2026年1月28日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 1-2学年特別指導体制報告について
2. 4年生CBT不合格者の現状報告について
3. 3学年の総合試験直前解説講義について
4. 令和8年度5学年ビデオ講座について
5. 令和8年度6学年Sクラスについて

第1回 1学年特別指導教員会議

日時: 2025年4月23日(水)15:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2025年度1学年特別指導体制および指導方針について
2. 2024年度1学年の進級判定結果の報告
3. 特別指導対象学生のクラブ活動制限に関する確認
4. 特別指導学生の組み入れ・解除要件について

第2回 1学年特別指導教員会議

日時: 2025年5月28日(水)15:00～

場所: オンライン

議題:

1. 1学年特別指導体制の現状報告
2. 対象学生の学修状況に関する報告

第3回 1学年特別指導教員会議

日時: 2025年6月25日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 1学年特別指導体制の現状報告
2. 対象学生の学修状況に関する報告

第4回 1学年特別指導教員会

日時: 2025年9月24日(水)15:00～

場所: オンライン

議題:

1. 1学年特別指導体制の現状報告
2. 本試験終了後の対象学生の成績状況について

第5回 1学年特別指導教員会議

日時: 2025年12月3日(水)15:30～

場所: オンライン

議題:

1. 1学年特別指導体制の現状報告
2. 本試験終了後の対象学生の成績状況について

第1回 2学年特別指導教員会議

日時: 2025年4月23日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2025年度2学年特別指導体制および指導方針について
2. 2024年度1-2学年の進級判定結果の報告
3. 対象学生の学修状況に関する報告

第2回 2学年特別指導教員会議

日時: 2025年5月28日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2学年特別指導体制の現状報告
2. 対象学生の学修状況に関する報告

第3回 2学年特別指導教員会議

日時: 2025年7月30日(水)15:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2学年特別指導体制の現状報告
2. 本試験終了後の対象学生の成績状況について

第4回 2学年特別指導教員会議

日時: 2025年8月27日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2学年特別指導体制の現状報告
2. 本試験終了後の対象学生の成績状況について

第5回 2学年特別指導教員会議

日時: 2025年10月22日(水)16:00～

場所: オンライン

議題:

1. 2学年特別指導体制の現状報告
2. 本試験終了後の対象学生の成績状況について

[委員会報告]

## 医学基盤教育委員会

医学基盤教育委員長

医学基盤教育部門 教授

松田 学

本年度は1回の医学基盤教育委員会が開催され、令和7年度・8年度の共通教養科目および外国語科目ならびに自然科学系基礎科目の現状と予定を確認し、主に基盤教育部門による各科目のサポート体制について確認を行なった。医学英語については、高学年の試験運営も基盤教育がサポートを行うこととした。また、今後、科目担当者の退任が予定される授業の運営について方向性が定まった。委員会規程についても、担当課の変更および委員構成の変容に伴う改定を行なった。

### 第1回 医学基盤教育委員会

日時：2026年3月11日(水)14:00～

場所：オンライン

#### 議 題

1. 医学部教育センター 医学基盤教育委員会規程の改定(案)について
2. 令和8年度の委員会の構成(案)について
3. 令和7年度の1学年時間割および授業運営・サポート体制
4. 令和8年度の1学年時間割および授業運営・サポート体制
5. 令和8年度の看護学部との連携授業
6. 選択科目の選択状況および人数上限
7. 高校理科の履修に関する入学時アンケートのIR室への移管
8. 医学英語 I～IVの試験監督のサポートについて
9. 令和9年度の共通教養科目の運営方針
10. オンデマンド授業の導入について

[委員会報告]

## 医学部 IR 委員会

医学部 IR 委員長

公衆衛生学 主任教授

今野 弘規

医学部IR委員会は、本部のIR委員会や医学部教育センターとは独立した組織として、アウトカム基盤型教育に立脚した医学部教育プログラムの評価に資することを目的とした活動をしています。すなわち、教学PDCAサイクルにおけるCheck機能を担う医学部自己点検・評価委員会に対する報告、および迅速な対応が必要な課題の対応策を講じるための教学Mini-PDCAサイクルにおける医学部教育センターの各種委員会(教務・カリキュラム・学生生活・学修支援、等)や入試委員会、教授会に対する報告を通じて、教学アンケート、試験成績、教育アウトカムの集計・分析結果に基づくエビデンスの提供を行っています。また、教学に関するアンケート実施の審議からデータ管理までの統括も担っています。今年度は、前年度作成した調査計画に基づき、前年度実施したカリキュラム改善や科目内容に関するアンケート調査の結果報告、試験成績の分析、教育アウトカム評価の妥当性の検証のほか、調査計画改訂による担当分析項目と報告先の明確化、新キャンパス移転に関するアンケート調査の実施と報告、等の活動を行いました。

### 医学部 IR 委員会の活動

#### A. 教学データ調査計画

改訂案作成(教務委員会で報告、教授会で承認)

#### B. 教学に関するアンケート調査

2024年度カリキュラム改善のためのアンケート(学生・教員)の結果報告

2024年度各科目内容に関するアンケートの結果報告

2024年度医学部カリキュラム・学修環境調査の結果報告

(医学部教育評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告)

大阪メディカルキャンパス(OMC)への移転後アンケート調査の作成・実施・結果報告(学生生活委員会・教授会で報告)

#### C. 教学データの分析(教務委員会・教授会で報告)

##### (1)試験成績

・2017-2025年度教学データの基本集計

## CBT 成績の推移

Pre-CC OSCE 合格者割合・不到達者の課題領域

学年別定期試験成績および5・6学年総合試験成績の推移

- ・1学年の不合格科目数とCBT合否との関連
- ・CBT本試験成績と医師国家試験合否との関連
- ・入試種別とCBT本試験成績との関連
- ・医学部カリキュラム・学修環境調査のモチベーション関連項目とCBT成績との関連

## (2)教育アウトカム

- ・2023-2024年臨床実習 I 教育アウトカム評価比率
- ・評価の妥当性の検証（4月の医学部教育センター会議で報告予定）  
2024年度自己評価と客観評価との相関  
2024年度客観評価の総合評価と各科目評価との相関

## D. 教学データ利活用のための基盤整備

- ・調査・分析に関する連絡調整  
利活用可能なデータの確認(学務課、医学部教育センター)  
調査・分析依頼内容の確認(学修支援委員会、学生生活委員会)
- ・OMCの IR 室への入室制限によるデータ管理のセキュリティ強化
- ・データクリーニングとデータセットの構築  
2015-2025年度教学データ  
2023-2025年度アンケート調査  
2023-2024年度臨床実習データ
- ・eポートフォリオの解析に適した様式での出力依頼(学務課)

## E. 情報発信

- ・IR室で利活用可能な教学データ(タイトル)の周知(教務委員会)
- ・ホームページ掲載  
2024年度医学部カリキュラム・学修環境調査結果の一部

## F. 情報収集

日本医学教育学会、医療系IR友の会、医療系大学のための教学IRセミナー、日本インスティテューショナル・リサーチ協会(eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム第5回フォーラム)への参加

## G. 教学に関するアンケートの審議

- ・GPS-Academic、GRIT調査、多次元共感性尺度(MES)、

## Jefferson Scale of Physician Empathy

医学部教育センター・池田行宏 2025年4月18日依頼・・・実施可

・Unit1臨床各論Ⅰ内分泌・代謝・糖尿病内科オンデマンド授業事後アンケート

医学部教育センター・池田行宏 2025年6月16日依頼・・・実施可

・気候変動と健康の医学教育カリキュラム統合に向けた基礎調査

名古屋大学・医学部学生 2026年2月3日・・・審査対象外

・病院見学アンケート

医学部教育センター・池田行宏 2026年2月13日依頼・・・実施可

## H. 委員会開催

### 第1回 医学部IR委員会

日時: 2026年12月4日(木)16:30~18:30

場所: 研究棟4階カンファレンスルーム7

参加者: 委員7名+事務2名(オンライン参加委員1名を含む)

議題:

1. 移転後アンケートの供覧
2. IR室の教学データ(タイトル)をきんぽたで共有する手段の確認
3. eポートフォリオ、2026年4月アンケート、医学部カリキュラム・学修環境調査アンケートの内容・記載方法の見直し
4. 教学データ調査計画改訂案の供覧

[教育関連学術業績]

## 論文

Yukihiro Ikeda, Yoshiyuki Mitsui, Akiko Tanoue (2025). Use of Manga and Videos as Trigger Scenarios in interprofessional education for undergraduate medical and nursing students. *Journal of Medical Education* 29: 158-168

[教育関連学術業績]

## 著書

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)

高等学校教科書 令和8年度版「改訂 生物基礎」東京書籍(2026)

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)

高等学校教科書 令和8年度版「改訂 新編生物基礎」東京書籍(2026)

[教育関連学術業績]

## 競争的研究資金獲得

園井 教裕、岡村 裕彦、三好 智子、園井 みか、藤田 貢  
文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(C) (2025-2028)  
3Dメタバースを用いた歯科・栄養連携強化のための教育プログラム開発と評価

園井 教裕、岡村 裕彦、三好 智子、園井 みか、藤田 貢  
放送大学教育振興会  
教育の改善充実に資する研究開発への助成事業 (2025)  
大腸がん予防への理解促進を目的とした仮想空間技術(メタバース)活用の有効性と課題の分析

[教育関連学術業績]

## 学会発表

1st Asia SPEC Conference 2025年4月26-27日 名古屋

### **Feedback from simulated patients participating in the medical interview training**

Yukihiro Ikeda, Yoshiyuki Mitsui

**Introduction:** Good communication in clinical practice not only reduces anxiety and worries for patients, but also has a positive effect on prognosis, treatment adherence, and safety. The simulated patients and students at our university have experience in medical interviews simulating initial outpatient visits, but have a few experiences in other situations. Therefore, we decided to implement an interview task on how to convey bad news for trainees who have progressed to a certain extent in clinical training. In this report, we aim to collect feedback from simulated patients who participated in the training, and to use it to improve the program.

**Methods:** A post-implementation survey was conducted on simulated patients who participated in the clinical training task "How to convey bad news" for fifth-year students in 2024.

**Results:** Responses were obtained from all 18 participants. In the question "About understanding the scenario," 13 out of 18 answered "It was easy to understand." As there were simulated questions and answers, "About pre-practice," it was smooth. There were many positive comments such as "It was easy to practice because the training staff gave us careful guidance," but there were also some negative comments such as "There wasn't enough time." After the interview training, some simulated patients commented, "I realized that the way the students who played the doctor communicated greatly changed the patient's perception. I felt that it was important to explain the test results in an

easy-to-understand way. The students only explained the symptoms and did not have time to talk about us. There were no set questions and answers, so we had to improvise, which was difficult. The interview time was short compared to the content, and the students seemed to be in a hurry.

**Conclusion:** There did not seem to be any major problems with the scenario content or practice, but the actual interview time was short, and there were scenes where the students spent the entire time explaining the symptoms. In the future, we will consider extending the interview time by about 4 to 5 minutes. Also, since feedback from the evaluator and simulated patients are important, we will allow more time to do it.

第57回日本医学教育学会 2025年7月25-27日 秋田

## 生成 AI で変わる医学教育

*Medical Education Transformed by Generative AI*

大塚 篤司

生成 AI とは、大量のデータを基に新たな情報を生成する技術であり、その基本原理および利用方法は、自然言語処理や画像生成など多岐に亘る。本講演では、初めに生成 AI の基本、具体的な使い方、ならびに誤情報の生成や倫理的問題などの注意点について概説する。その上で、医学教育への応用として三つの領域に焦点を当てる。まず、模擬電子カルテ実習においては、生成 AI が迅速かつ多様な症例データを提供することにより、学生は実臨床に近い環境下で記録作成および診断演習を体験できる。これにより、従来の知識偏重の教育から、実践力および臨床判断力の涵養へと教育手法が変革される。次に、パフォーマンス評価では、生成 AI によるリアルタイムのフィードバックを活用し、学生の問題解決能力、コミュニケーション力、迅速な判断力が客観的に評価される仕組みが整備されている。さらに、シミュレーション教育では、生成 AI が構築する臨床シナリオを基に、医療現場で求められる対応力およびチームワークが強化される。本講演では、これらの取り組みが将来の医療現場における安全性向上と質の高い医療実現に寄与する可能性を示唆するとともに、生成 AI の応用が医学教育に革新をもたらす点について概説したい。

## 毎年実施されるプロフェッショナリズム教育は学生の共感力を下げない可能性がある

*Annual professionalism training may help prevent students from losing their empathy.*

池田 行宏、三井 良之、藤田 貢、平野 豊、富士 佳弘、東 賢一、前田 法一、梶 博史、西尾 和人

【背景・目的】 共感する力の育成は医療者教育で重要な課題である。国内外の報告で、学生の共感力は入学時が最も高く、学年が上がるにつれて低下し、臨床実習前の4年生で最も低くなるといわれている。その原因は学修が知識偏重、あるいは学生同士の競争という中で失われていくのではないかと推察されている。そこで今回、毎年実施されるプロフェッショナリズム教育において共感力がどのように変化したかを評価し、今後のプログラム改善に役立たせることを目的とする。

【方法】 2022年度の1年生プロフェッショナリズムコース受講者113名に対し、多次元共感性尺度、Jefferson Scale of Empathy-Student Version: JSESを用いて、入学時(JSESのみ)、1学年・2学年プロフェッショナリズムコース終了時(多次元共感性尺度、JSESの両方)に測定、共感力にどのような変化があるか追跡調査した。

【結果】 多次元共感性尺度の合計得点は、1年コース終了時の平均は80.7(男性79.2、女性84.4)2年コース終了時は85.5(男性84.0、女性89.8)と5点程度上昇していた。また、共感する力の5領域(他者指向的反応、自己指向的反応、被影響性、視点取得、想像性)のうち、他者指向的反応のみ7.7点上昇しており、他の4領域では1年間でほぼ変わらない状態であった。JSESは入学時78.5(男性78.0、女性79.7)1年コース終了時79.2(男性78.9、女性80.0)、2年コース終了時79.5(男性79.1、女性80.6)と2年間通じてほぼ変わらない状態で維持されていた。

【考察・まとめ】 いずれの指標も女性が男性より高い得点を見せたが、これは先行研究と同様の結果である。多次元共感性尺度において他者指向的反応が1年後に上昇していたという結果からは、教育を通じて、自分ではなく他者に視点を置いた考え方ができるようになってきているということが窺えた。JSESの得点が維持あるいはわずかに上昇していることから、定期的実施されるプロフェッショナリズム教育が学生の共感力維持にある程度寄与しているのではないかと示された。今後学年が進み、共感力が維持・向上されていくのか、追跡していく。

第57回日本医学教育学会 2025年7月25-27日 秋田

ホスピタルアートの教育プログラムはどの教育アウトカムと関連付けるべきか  
—学生へのアンケート調査から—

*Which Educational Outcomes Should be linked to Hospital Art Programs?*

三井良之

【目的】 近畿大学医学部では文芸学部と共同で近畿大学病院におけるホスピタルアート活動とともに、医学部学生に対してもホスピタルアートの授業を展開してきた。一方、ホスピタルアートがどのような教育アウトカムと関連付けられるかについては、十分に検討されてこなかった。今回、我々は、学生へのアンケート調査を通じて、どのアウトカムとの関連が相応しいかを検討した。

【方法】 医学部 2 学年学生に実施されるホスピタルアートの授業開始前および終了後に「ホスピタルアートについてどのようなイメージを持っていますか」との質問に応えるアンケート調査を行い、K-H コーダーを用いたテキストマイニングの手法で共起ネットワーク分析を行った。

【結果】 事前アンケートは 63 名、事後アンケートは 52 名の回答が得られた。事前アンケートと事後アンケートを比較すると、1)事前アンケートでは重要なキーワードが孤立しているのに対し、事後のアンケートでは、「患者」というキーワードを中心にキーワード同士がつながりを持っている、2)事後アンケートでは、名詞のキーワードだけでなく、「思う」、「感じる」等の動詞が関連している、などの傾向が見られた。

【考察】ホスピタルアートの授業を通して、ホスピタルアート活動は、学生たちは患者を中心に展開し、行動する必要性を感じたのではないかと推測した。

【結論】これまで、教育アウトカムは、「倫理とプロフェッショナリズム」に関連づけていたが、この結果を通じて、「総合的に患者をみる姿勢」がより相応しいと考えている。

第57回日本医学教育学会 2025年7月25-27日 秋田

## **Questionnaire-based analysis of faculty self-evaluation: teaching strategies and assessment methods**

藤田 貢、三井 良之、池田 行宏、梶 博史、松村 到

Current practices in selecting teaching strategies and assessment methods in medical education often rely on empirical approaches rather than evidence-based frameworks, despite accreditation standards such as WFME 2020 guidelines emphasizing competency-based alignment. In addition, self-evaluation of teaching practices by faculty members for educational improvement remains underutilized. This study analyzed self-report data from 75 departments to evaluate teaching strategies, assessment methods, as well as adherence to key measurement domains: validity, reliability, feasibility, learner acceptability, and educational consequences.

Teaching strategies predominated by lectures (38%), practical training (22%), and problem-based learning (18%) revealed a persistent emphasis on traditional methods. Assessment practices prioritized report evaluations (25%), MCQ/written testing (combined 40%), and presentations (13%), with limited adoption of observation-based (11%) or simulator-based (9%) assessments. Despite faculty self-rating alignment with measurement domains at a median of 3.2/5 on Likert scales, free-text responses highlighted insufficient critical engagement with validity, reliability, and educational consequences.

The survey served dual purposes: identifying gaps in competency-based curriculum implementation and acting as a reflective faculty development tool. Data underscore the need for structured training programs to deepen understanding of frameworks like Miller's Pyramid and Kirkpatrick's model, particularly in aligning assessment design with intended learning outcomes. Future initiatives will focus on integrating these findings into targeted

workshops to bridge the gap between accreditation standards and classroom practice.

### 三大学による標準模擬患者交流の効果と課題

#### *Effects and issues of standardized patient interaction conducted by three universities*

栩野 吉弘、池田 行宏、三好 智子、生野 真嗣、岡田 明子、大松 隆之、岡本 真美、土橋 昌子、三井 良之、片岡 仁美、首藤 太一

【背景】 医学生共用試験 OSCE(obstructive structured clinical examination)の公的化に伴い、医療面接の標準模擬患者認定制度が開始となった。演技の質の担保がなされることにより、大学間での模擬患者交流が容易になった。今回、国公立大学による臨床実習前 OSCE における模擬患者の交流を実施したので報告する。

【方法】 事前の準備として、各大学の教員と事務担当による WEB ミーティングを 3回実施した。ミーティングでは模擬患者を派遣する際に想定される課題(費用、人数、日程)に対する対応を協議し、派遣元大学の模擬患者が参加するための調整として、試験時間を午後にすることや派遣元の模擬患者が不足する場合には自大学の模擬患者で補うことなどを行った。模擬患者へ、試験終了後にアンケートを実施した。すべての大学の試験が終了後に大学間の交流における課題と効果について WEB ミーティングで検証した。模擬患者アンケートと WEB ミーティングにて、本取り組みの効果と問題点について検討した。

【結果】 近畿、大阪公立、京都大学の各大学の模擬患者数は、派遣がそれぞれ 10 名、11 名、14 名で、自大学で補填した人数はそれぞれ 10 名、5 名、0 名であった。模擬患者アンケートでは、参加を判断するのに大事な項目として日時(92%)、場所(75%)、謝金(25%)、交通費(24%)と日時と場所が多かった。全員が参加してよかったと回答した。自由記載では、他大学の状況を知ることができたことや社会貢献の実感や緊張感があったなどの意見があった。WEB ミーティングでは、教員からは他大学の模擬患者や試験に触れることで学びがあったことやより公正な試験が実施できたとの肯定的な意見と、標準化の際の経費の違いや標準化の方法の違いがあり、今後の課題として挙げた。事務担当からは事務担当間でのやりとりがスムーズにできて問題なく試験が実施できたこととともに、事務担当者間の風通しがよくなったことが有益だったとの意見があった。経費負担の増大が課題としてあがった。

【結論】 模擬患者の交流は模擬患者、教員、事務担当にとってそれぞれに有用であった。一方で、費用面が課題としてあがった。

第57回日本医学教育学会 2025年7月25-27日 秋田

**高度医療人材養成を目指したロボット手術クリニカルクラークシップ**  
*Robotic Surgery Clinical Clerkship for Training Advanced Medical Professionals*

貫戸 明子、三井 良行、松村 謙臣、上田 和毅、新海 政幸、南 高文、藤田 和利、梶 博史、西尾 和人

【目的】近年のロボット手術の発展はめざましく、早期人材養成の観点から医学部卒前教育への導入が望まれる。とりわけ、大学病院は設備だけでなく症例や指導医の数、経験年数などの面からも果たせる役割は大きいと考える。今回、我々は、文部科学省高度医療人材養成事業の支援を受けて、臨床実習にロボット手術に特化した教育プログラムを導入したので、その実践報告を行う。

【方法】医学部 5 学年、6 学年を対象とした診療参加型臨床実習の選択実習においてロボット手術に特化した診療科横断的なカリキュラムを新たに創設し、従来とは異なるアプローチから学生の学習意欲や将来選択に与える影響と、後進育成の観点から指導者が医学部卒前教育において果たす役割に関する認識に変化がみられるかを測定した。初年度は外科・泌尿器科・産婦人科の 3 科が共同で 4 週間 1 クールで選択学生(1~2 名)を受け入れ、ロボット手術症例の実際の手術にも参加して周術期の患者管理だけでなく、ロボットのアノテーション機能なども指導者とともに利用して、よりロボット手術についての学習を深めるカリキュラムとした。

【成績】初年度は実習に参加した学生から、選択動機・将来志望する専門分野・実習参加前後での知識や技能の変化に加え、気づきや感想を、教員からは指導前後で自身の指導方法や学生に対する態度の変化などを、ともに省察するような形で半構造化インタビューを行い内容分析した。

【結論】学習者と指導者から得られた情報を蓄積し、診療科横断的にプログラムのブラッシュアップを重ねることで、学習者が意欲的に実習に取り組む手法や指導者の手術教育の質向上だけでなく、単一の診療科だけでは見えなかった気づきが得られるものと考えられる。

International Conference on Education, Language and Teaching (ICELT), Bangkok, Thailand, 12 February, 2026

**English for Medical Purposes: Keynote presentation innovations.**

Phillip M. Clark

**Background:** Second and foreign language instruction (SLA/FLA) operates through varied curricular frameworks tailored to specific academic, professional, and cultural contexts. Within this domain, English for Medical Purposes (EMP) addresses the communicative requirements of healthcare settings, intersecting with English for Occupational Purposes (EOP) in clinical practice and with English for Educational Purposes (EEP) in early-stage medical training.

**Methods:** The presentation centered on early-year medical students working in a second-language environment. It examined the use of Keynote for Mac as a primary instructional tool, with particular emphasis on visually driven and animated slides, and was developed from the foundation of an earlier presentation delivered in Krabi, Thailand (2023). Keynote was used to build and reinforce medical vocabulary, present clinical concepts through coordinated visual and verbal input, and model clear, engaging presentation practices for students. The session also provided an adaptable template intended to support the development of more effective, visually structured, and dynamic teaching materials.

**Conclusion:** I presented to a total of 25 attendees from Southeast and Southwest Asian countries. Although there were few questions, generally response was positive, in particular questions on the various uses of the newly released version of Keynote (2026) and how it differed from the legacy version.

[教育関連学術業績]

## 講演・ワークショップ

第57回日本医学教育学会 2025年7月25-27日 秋田

医学教育を最近始めた人を応援するワークショップ

~All for Novice Medical Educators, All Together~

*Workshop for beginners of medical education*

-All for Novice Medical educator All Together-

木村 友和、森本 勝彦、貫戸 明子、佐藤 泰征、細川 幸希、尾上 剛史、鈴木 創、  
村松 友佳子、與那覇 忠博、小西 泰介、三浦 聖子、宮本 真豪、谷口 大介、鳥居  
暁子

医療者が教育に携わることになるきっかけは様々である。新人の指導担当になった、大学で学生教育の担当になった、初期研修医の面倒を見ることになった、研修プログラムの責任者になった、…。教育に関わるようになる理由は様々であるが、医療職は特殊な知識と技術を持った専門職であるため、現場で働きながら指導、教育することを求められる。

医療者は教えられるよりも教える期間の方が圧倒的に長いにもかかわらず、それまで系統立てられた「教育についての教育」を受ける機会は、ほとんどない。そのため、自身が受けた教育をもとに後進を教えていると、「本当にこの方法でいいのか?」、「ちゃんと教育できているのか?」、「どう教えたらよいかわからない」、「自分自身がまだ教育を受けてる側なのに教えてもいいのか…」など悩みもある。近年は、オンラインツール等が急速に普及し、デジタル技術の導入や管理等も対応せざるを得なくなってきた。また、「教育の業務を周りに手伝ってくれる人がいなくて大変だ」、「時間外労働が制限され教育に時間なんてとれない」、「教育だけやっていたら今後のキャリアがどうなるのか不安」、など教育に関わる悩みは尽きない。

本ワークショップでは、各演者に「私は医学教育になぜ関わるようになったのか」、「いま何にもがいているのか」、「今後どうなってしまうのか」、など、医学教育初学者の時代を中心に、これまでの道のりを自己開示していただく。そして参加者にもグループディスカッションを通じ、医学教育に携わることになった自身の過去・現実・未来について言語化していただきたい。演者、ファシリテーターとともに、今後の医学教育に携わるモチベーションとなる時間を過ごし、今後の医学教育に携わっていくための目標を立てていただける機会としてご参加いただきたい。「今回初めて医学教育学会に参加する」、「大会の演題抄録を読んでも難しい単語が多くて意味が分からない」、「来ては見たものの周りに知っている

人がいなくて心細い」、そんな方には、ぜひ今回で 3 回目になる本ワークショップにご参加いただきたい。

第57回日本医学教育学会 2025年7月25-27日 秋田

**生涯キャリアヒストリー法ファシリテーション体験をしてみよう！**

*Lifelong Career History Act Facilitation Event*

貫戸 明子、種村 文孝、鳥居 暁子、渡邊 洋子、三浦 聖子、小西 泰介、細川 幸希、宮本 真豪、西村 謙一、谷口 大介、犬塚 典子、池田 雅則、池田 法子、柏木 睦月

令和 4 年度に改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムによると、「変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ、活躍できる医療人の養成」が今日の卒前教育に求められている。卒業時に身に付けておく 10 の資質・能力が規定されたが、中でも「生涯にわたって共に学ぶ姿勢(Lifelong Learning:LL)」には「安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。」とある。卒後、多くの医療専門職が臨床現場で活躍するが、ライフステージや自身の変化に応じてキャリアを開拓し構築していくためには、臨床以外の選択肢や活躍の場に関する情報に接する機会や多様な求めや変化に応じた柔軟な考え方を学ぶ機会が必要である。個々の医療専門職が自身の専門職性をどう認識し、それを生涯キャリアにどう反映させるかという視点が希薄であると新潟大学 創生学部 渡邊洋子らが指摘し、生涯キャリアヒストリー法の開発につながるが、我々は生涯キャリアヒストリー法は LL の教育方法の一つになり得ると考えている。本ワークショップではその開発メンバーである「生涯キャリアヒストリー法研究会」のメンバーとともに実際に生涯キャリアヒストリー法のファシリテーションを体験するものである。参加者は事前課題と個人ワークを当日までに済ませた状態で、当日は小グループに分かれて個人ワークの共有をするグループワークで進行役としてファシリテーションを担ったり、オブザーバーなどで観察する役割を担ったりして、実際にやってみることでその意義やあり方を参加者とともに考え、グループワークが一巡したところで他のグループともその経験や感想を共有する。実際のキャリア支援などにあたることもある教員、教育担当ではなくとも組織の中で同僚や先輩後輩と関わっていくことが必須である医療専門職、自身のキャリア構築に悩んでいる学生など、多くの参加者が LL 実現のための新たな視点を得られたら幸いである。

### 生涯キャリアの観点から大学生活の意味を考えよう

#### *Reflecting on the Meaning of University Life from the Perspective of a Lifelong Career*

種村 文孝、岡崎 三枝子、渡邊 洋子、犬塚 典子、池田 雅則、池田 法子、柏木 睦月、三浦 聖子、貫戸 明子、小西 泰介、細川 幸希、鳥居 暁子、鵜沼 篤

生涯キャリアという観点から振り返った際に、大学生活やそこでの学びはどのような意味をもつのだろうか。本ワークショップでは、Lifewide（社会生活、生き方）と Lifelong（生涯という時間的展望）という特徴を有する生涯キャリアの観点から、大学生活の経験や学びがその後の仕事や生活にいかなる影響を与えうるかを振り返り、医療者養成における大学のあり方を検討することを目的とする。

これまで教育学者を中心とする生涯キャリアヒストリー研究会では、生涯キャリアヒストリー法フォーマットを開発し、医療専門職の生涯キャリアと生涯学習について探究してきた。そして、生涯キャリアという Lifewide かつ Lifelong という視点を活かすことで、大学生活やそこでの学びの意味をより多面的に理解し、大学生活の捉え直し、キャリア支援、学生の生涯学習的態度の涵養につなげられる可能性を感じるに至った。

そこで本ワークショップでは、医療者及び学生が、生涯キャリアという観点から大学生活の過ごし方や経験を振り返り、対話を通して、大学の可能性を捉え直すことを試みる。大学における学びを、授業、実習、部活動、バイト、趣味、友人や先輩や教員などの周りの人のサポート、予備校での学びなどを含めて広く捉え、自身がどんな学生生活だったか、何を大切にしていたかについて対話を通して振り返ることとする。そして、大学生活における出来事や経験、考えたことが、その後のキャリアや医療職としての仕事にどう影響してきたかまで省察する。なお、医療専門職、研修医、学生などと、幅広い層の参加を歓迎し、大学生活や学びが自身の生涯キャリアにどう影響を与えているのか、さらに医療専門職養成における大学の意味やキャリア支援のあり方まで捉え直す場にしたい。

このように本ワークショップは、学生にとっては大学での学びを捉え直したり生涯キャリアを考える場となり、医療専門職にとっては自身の生涯キャリアを振り返るとともに学生や研修医のキャリア支援及び学習支援のあり方を検討する場となるであろう。

第57回日本医学教育学会 2025年7月25-27日 秋田

## ビギナーズ pecha-kucha on moyamoya ～医学教育ビギナーの語り合い/学び合い～

### *Pecha-Kucha and Moya-moya for beginners in Medical Education*

町田 幹、伊藤 智範、小松 誠和、三浦 聖子、貫戸 明子、松本 卓子、力丸 由起子、橋本 克彦、海津 聖彦、谷内 七三子、藤田 貢、有川 智博、野村 智久、梅村 将就、園井 教裕、小曾根 早知子、紺野 久美子

「医学教育」は、基礎医学と臨床医学、卒前教育と卒後教育など、多様な切り口で将来の医学・医療を担う人材を育成する役割を担う。初心者にとっては「ハードルが高い」と感じる事が多く、実践で戸惑う(モヤモヤする)場面も少なくない。本ワークショップ(WS)は、初心者が抱えるモヤモヤを解決することを目的とし、①仲間づくり、②体系的な学びの方略を知る、③ワールドカフェという話し合い技法の体験を提供する。

「ワールドカフェ」はリラックスした自由な雰囲気で行う小グループでの対話であり、WS では以下の 4 つのテーマを扱う。

- テーマ 1:「医学教育に携わる動機、普段の活動」 医学教育に携わるきっかけや現在取り組んでいる活動について共有し、初心者が直面する特有の疑問や課題を明確化する。
- テーマ 2:「失敗談やモヤモヤの共有」 教育実践での試行錯誤や失敗体験、解決の難しい課題について意見を交換し、参加者間での共感や新たな気づきを得ることを目指す。
- テーマ 3:「医学教育を学ぶための方法」 医学教育を体系的に学ぶ機会として、「富士研ワークショップ(医学教育者のためのワークショップ)」や「医学教育専門家コース」、「FCME(現場で働く指導医のための医学教育学プログラム)」、「メドギフト(MEDC, GIFU Total learning course)」、MHPE(医療者教育学修士)などが知られている。これらの簡単な紹介に続き、初心者が教育リソースを効果的に利用できる道筋を探る。
- テーマ 4:「あなたが目指す医学教育」 以上を踏まえ、医学教育との関わり方を多角的に考察する。授業方略の見直しや教員間の協力、働き方改革における教育努力の割り当て、さらに、教育専業と兼業の選択やフィードバック活用の適切な方法について検討する。

対話を通じて、医学教育初心者が「モヤモヤ」を言語化し共有することで、仲間関係を築き新たな視点を得ることを期待している。他者との共感や学びが、さらなる一步を踏み出す契機となるであろう。

藤田 貢

**研究効率爆上げ！生成 AI 徹底活用術 - 基礎から実践的活用、倫理まで**  
神戸大学大学院保健学研究科 分析医科学特別講義  
オンライン (2025年 6 月 3 日)

藤田 貢

**医学研究における VSCode + GitHub Copilot 活用ワークショップ**  
神戸大学大学院保健学研究科 分析医科学特別講義  
オンライン (2025年 6 月 17 日)

藤田 貢

**高校生のための医療系多職種連携入門 ~チームで支える未来の医療~**  
近畿大学附属高校医薬コース 大学見学講義  
近畿大学大阪狭山キャンパス (2025年 7 月 16 日)  
参加者: 医薬コース 4 年生 (高校 1 年生相当) 30名

松田 学、朴 雅美、博多 義之

**細胞の個性を探るスタンプラリー**  
大谷高校学校 見学模擬講義  
近畿大学大阪狭山キャンパス (2025年 7 月 29 日)  
参加者: 高校 1 年生 31名 引率教員 3名

博多 義之、岡田 清孝、近畿大学医学部2学年 2名、医学部3学年 2名

**まなびーばsayama2025 夏休み理科実験教室**  
令和 7 年度大阪狭山市立第七小学校  
大阪狭山市公民館 (2025 年 8 月 8 日)  
対象: 中学生対象 15 名程度

藤田 貢

**AI 文書構造化ツール (Docling/Pandoc) を用いた科学文書執筆のコツ**  
愛知県がんセンター研究所 特別講義  
オンライン (2025年 8 月 29 日)

藤田 貢

医学研究における AI 画像解析と AI 支援診断への発展の可能性 - 画像解析  
における深層学習アルゴリズムの活用法

愛知医科大学大学院 脳神経外科学特別講義

愛知医科大学キャンパス (2025 年 10 月 25 日)

藤田 貢

コーディングエディタ + AI エージェントを用いた医学系文書執筆のコツ

愛知県がんセンター研究所 特別講義

オンライン (2025年 11 月 28 日)

Phillip M. Clark

ACIE 2026, the 5th annual conference of the Asian  
Conference for Innovation in Education

February 9–10, 2026, Bangkok, Thailand

Conference organizer

藤田 貢

AI コーディングエディタ Antigravity による医学系文書執筆ワークショップ

愛知県がんセンター研究所 特別講義

オンライン (2026年 3 月 27 日)

[教育関連学術業績]

## その他

藤田 貢

医学論文用文献管理ツール “PyRefPmid” 公開

<https://github.com/mfujita47/PyRefPmid>

藤田 貢

オンデマンド教材作成支援ツール “PySlideSpeaker” 公開

<https://github.com/mfujita47/PySlideSpeaker>

## 編集後記

医学部教育センター年報 編集担当

医学部教育センター 准教授

藤田 貢

令和7年度（2025年度）は、当教育センターにとって大きな転換点となる一年となりました。まず組織の基盤として特筆すべきは、大阪狭山キャンパスからおおさかメディカルキャンパス（OMC）への移転です。この物理的な環境の刷新は、教育センターの活動に新たな活力をもたらすとともに、変化する医学教育の要請に即応するための象徴的な再スタートとなりました。

組織の運営面においては、事務課の体制にも大きな変化がありました。令和7年春には清水課長、池光氏、勝間氏が交代で着任され、センターの安定した運営に尽力いただきました。さらに本年（令和8年）春からは、貫戸先生、北本氏、山田氏、谷内氏が新たなメンバーとして加わっております。新旧メンバーの力が融合し、センターの支援体制がさらに充実していくことを期待しております。

本年度の教育活動を振り返ると、医学教育とAIの共存がより一層深化・浸透した一年であったと感じております。生成AIを単なるツールの域を超え、医学教育の質的向上と業務効率化を支える不可欠なパートナーとしていかに位置づけるか。近大医学部全体としての実践に直面した一年であったと感じています。

私個人としては、令和5年度（2023年度）から取り組んできた医学教育専門家資格の取得に尽力しました。現時点ですべての課題および試験を完遂しており、教育者としての研鑽の一つの区切りを迎えることができたと感じております。この学習過程で得た知見と経験を、今後のセンターの活動、ひいては本学の医学教育の発展に還元していく所存です。

最後になりましたが、本年報の作成にあたり多大なるご協力をいただいた関係各位に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

2026年4月吉日